

喀痰採取における留意事項について

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、喀痰を検査材料とした微生物学的検査においては下気道由来の検査に適した検体を用いることが重要であることから、特に留意事項として「喀痰の採取手順」、「検査に適した喀痰の例」を参考に検体のご提出をお願いします。

取り急ぎご案内致します。宜しくご利用の程お願い申し上げます。

謹白

記

喀痰の採取手順

- ① 口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2~3回うがいをして口の中をきれいにして下さい。
- ② 容器の中に、できるだけ多くの喀痰を採って下さい。(1mL以上が望ましい)
- ③ 膿性部分のある「良い喀痰」が採れたかどうか確認します。
- ④ 容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。(シャーレ容器は不可)

検査に適した喀痰の例

良い喀痰の例

- ・ 膿性部分がある。
- ・ 新鮮である。
- ・ うがいなどで雑菌が除かれている



P3: 膿性部分が 2/3 以上の喀痰



P2: 膿性部分が 1/3 以下の喀痰

悪い喀痰の例

- ・ このような喀痰では正しい結果が得られない可能性があります。



M1: 唾液（つば）



多量の血液が含まれたもの
(PCR 検査の場合)

【注意点】

- ① 被検者に採取方法をよく説明して最大限の協力を得る。
- ② 入れ歯がある場合は外して行う。
- ③ ティッシュペーパーなどの異物を入れない。

参考資料：

- ・ ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社「結核菌（抗酸菌）検査に適した痰の採り方」
- ・ 結核菌検査指針 2007、
- ・ Miller & Jones の分類